2024 年 8 月 25 日（日） 14：00
南下浦コミュニティセンター 2 階多目的ホール
参加：97 名

自主上映会「掘る女 縄文人の落とし物」

自主上映会にご参加の皆さま、暑さの中お運びくださいましてありがとうございました。おかげさまで、97 名の方々に映画を見ていただくことができました。ここまでの人数のご来場を想定していなかったので、何やかやとバタバタしてしまい、せっかく会場までお運びいただいた会員の皆さまに十分なご挨拶ができなかったことが心残りです。申し訳ありませんでした。お詫び申し上げると共に、ご協力に深く感謝申し上げます。

ここ数年、私たちこあじろの森くらぶは地元の方や専門家の先生のお話を聞いたり、みんなで遺跡を訪れたりして考古学に親しんできました。そうするうちにいつか考古学が、小網代の昔が、身近に感じられるようになりました。三浦市の中にも旧石器時代、縄文時代、弥生時代、古墳時代、古代・中世、近現代にいたるまで本当にたくさんの遺跡があることを知り、実際に遺跡を訪れてきました。

考古学は発掘されたモノから得られる情報がすべて。博物館に展示されている土器や土偶や鏃（やじり）や石斧や勾玉もみんな土の中から掘りだされたモノ。そういえば以前、小網代の森へ通う道すがら発掘現場を見かけたことがありますが、いったいどうやって掘っていたのだろう？もっとよく見ておけばよかった。掘っていて何か出てきた時は嬉しいだろうな、そもそも誰が掘っていたの？などと思いを巡らせていたところ、そんな私たちにピッタリな映画があったのです。劇場での上映は終わっていましたが、自主上映という手段があることを知り、6 月末に新設オープンする南下浦コミュニティセンターでの上映会を企画しました。とは言うものの、担当スタッフは全員まったくの素人。上映費用の参加者 1 名 1000 円という金額を、ご来場の方からいただいても、満足して帰っていただけるレベルのものが提供できるかどうか、まったく自信を持つことができません。まず上映会参加費は無料とすることを決め、30 名以上の集客を目標にします。幸いなことに関係各所のご協力がいただけ、集客は順調に進みました。あとは当日を待つばかりです。

いよいよ自主上映会当日を迎えました。エイヤ～！と蓋を開けてみたところが、想定を大幅に上回る大盛況！あれよ、あれよと嬉しい悲鳴。椅子が足りなくなり追加に継ぐ追加、なんとか全員に着席して

いただいたところで上映中の注意事項や上映支援金のお願い等をお話しし、上映会は無事スタート。

前号の通信で、劇場での上映は終わっているとお伝えしましたが、今後数回の上映予定が組まれたよう

①最初に並べた椅子はこれくらい

②こんなに大勢の方が!!

③多めに預かったグッズもほぼ完売

です。他にも自主上映会を考えている方があると聞いていますので、ここでは映画の内容について詳しく書くことは控えさせていただきます。ですが、終了後皆さまからいただいたご感想の数々に胸に受けた感動が、あふれるように、こぼれ落ちるかのように綴られていました。通信第 43 号にも一部紹介しましたが、皆さまのメッセージを読んでいただくことで、映画の内容が伝わるのではないでしょうか。

終了後は若干の休憩を挟んで、会場にいらっしゃったお二人の考古学の先生にお話を伺いました。映画を見終わってのご感想はもちろん、いつもとは少し異なる視点からのお話を伺うことができ、お得な気分の上映会でした。先生方のお話も掲載いたしましたので、是非ご精読ください。

記：橋みちよ　写真：辻 晴一　浪本晴美

やりきってホッと一安心

ご観劇の皆さまからメッセージをいただきました

とても根気のいる作業ですね。好きでないとなかなか続けられないことと思います。長い期間の作業をまとめて見ることができて良かったです。
どんぐり

とても楽しく見ました。発掘していく中で 3500 年も前の人の生きていた痕跡が目の前にあらわれる事の不思議さ、何と言って良いか

縄文ブームの裏側に、こんなにたくさんの人達の情熱と誠実さがあったことにとても驚きました。大竹さんのユニークで明るいお人柄にもとても魅かれました。ステキな上映会ありがとうございます。

「本当に」こんなにたくさんの人（来場者も含め）が考古学にかかわっているのだ！と、しみじみ驚きました。設営など、大変でしたね　N.Y

同じく考古にはまったものとして、やめられない気持ちが良くわかりました。
オモシロカッタです!!　S.K

上映に至る様々な準備、大変だったことと推察いたします。2 度目の鑑賞です。上質なドキュメンタリーです。

学生時代に考古学（ただし西洋）を専攻して以来、ほとんど 50 年振りに発掘の興奮を思い起しました　ニック

身近に感じておもしろかったです。30 年もエネルギーを持ち続けられて幸福なことでした

・今まで知らない世界で楽しかったです。
・国宝に指定された土偶を掘ったおばちゃん 2 人がかわいらしかったです
・大学院の女子学生のコメントがとても印象に残りました。　T.I

とても良かったです。ドキュメンタリーは取材対象者とどこまで人間関係を構築するかで決まると思いますが、確実に信頼関係を築いていたことがうかがえます。縄文に一層の興味がわいてきました。こあじろの森くらぶの皆様も御苦労様です。
Y.T

楽しかったです。博物館にかざってある物がこんなにも大変な過程を経たことに感じ入りました。ありがとうございます。　T.T.

映画すばらしかった。感動しました。また、会の活動もすばらしいです。応援しています　M.M

おもしろい映画でした。掘ってみたいなー
でも、大ざっぱな私は…　A.K

・内容は十分興味深いものであった
・中高生にも見てほしい
・会場がもう少し見やすいとよい

昔の人の暮らしにふれてみたい一心で、ひたむきに調査にはげむ方々の姿に感動しました。私たち現代社会が作り上げたものも、いつか土にうもれて、またのちの人かなんかがほり出すのでしょうか。　Y.M

ありがとうございました。とても楽しく見せていただきました。先生方のお話もとても興味深かったです。

縄文の魅力が詰まった、良い映画でした。黒曜石星くそ館に行きたくなりました。　チャン

縄文遺跡に関心はなかったが、この映画を見て変わりました。三浦にも赤坂遺跡の展示室がありますが、物置に遺物が置いてあるようで、子供達は関心を持たないのではないでしょうか。

私達が出会う土器 etc.は、殆ど博物館等整理された姿。それを発掘する人々、特に慎重に手を動かす女性の素晴らしさ!!各地の現場で発掘をされた人々の努力のお陰で日の目を見られた古代の土器 etc.の遺物。素晴らしい上映会でした。有難うございました　ひ

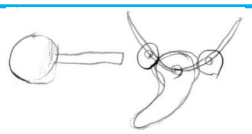
楽しかったです。でも、忍耐強く、繊細に、注意深くの世界。そして一に体力、二に体力ですね。毎回トーハクで何気にみてた土偶をこれからはもっと気にかけて観てみます。

すばらしい映画を紹介してくださり、ありがとうございました。
好きでなさっているとはいえ、気力・労力のいる発掘、地道な作業に頭が下がります。皆様のおかげで古代の人々の生活が想像できるようになり感謝です。　chae

すばらしい作品をありがとうございました。縄文が大好きで各地の博物館を訪れ、展示物を見させていただいて来ましたが、その奥にある皆さんの御苦労を思い、次回からより深く、見学したいと思います。
横須賀市　K.I

おもしろい!!
私もほりたい！

たのしかったのでまたきたいです。（あったら）はっくつしてみたいです　I.K



先生のお話で、「掘る女」たちが三浦にもいたことを知り嬉しかったです。それにつけても三浦にも博物館が欲しい！　A&Y

大変面白く拝見しました。現地見学会に何度か行きましたが現場のリアルな姿をかい間見られました。女性の視点で女性を描いていましたが、冷静で必要以上に女性を強調していない点がよかったと思います　一考古ファン

日々のくらしの中で縄文とつながる面白さ。
学校教育とは違う学びの姿。

高校時代熊本県で、縄文土器のかけらを拾ったのをきっかけに、黒塚発掘、土器のかけらと共に「もみがら」が出て来て、大きな話題となり、新聞や NHK ラジオ放送に出た経験があり、なつかしかったです。今 91 歳となり、エデンの園で生活しておりますが、地元に縄文時代の遺跡が多々ある事を知りました。よい時間をありがとうございました。　H.I

大竹さんをはじめ、掘る女、男、みんなの汗が宝石に見えました。人の力があわさり、過去から未来につながる長い時の素晴らしさを感じました。どの人もかっこいい!!
M.K

楽しく拝見しました。掘り出した物を遺失物として警察に届けるというのは驚きでした。

とても面白かったです。ありがとうございました。発掘する喜びは、かけがえのない人類のつながりですね。

映画で観ると理解しやすくてとてもよかったです。これを観てから博物館へ行けばより興味深く学ぶことができそうです。上映していただき、ありがとうございました。　T.H

三浦の地層を見ることは多くありましたが遺跡は跡だけ見る赤坂遺跡のような所で掘る話を聞いてもこのような形で見る機会はなく、とても大変なのだなあと思い、話だけではなく少しやってみたくなりました

自主上映会「掘る女 縄文人の落とし物」アフタートーク

2024 年 8 月 25 日　於南下浦コミュニティセンター

上映終了後にお時間の許す方に残っていただき、これまでにもこあじろの森くらぶが大変お世話になっている釼持輝久先生、須田英一先生を迎えてアフタートークの会を催しました。お話しくださった内容をそのままお伝えします。その場にいらっしゃらなかった方にも雰囲気を感じていただけましたら幸いです。

松　　原：スタッフの松原と申します。よろしくお願いします。ここで、こあじろの森くらぶが考古学についてご教示いただいている、横須賀考古学会の先生方をご紹介いたします。私の隣にいらっしゃるのが、釼持輝久先生です。佐島入口の近くにある「赤星直忠博士文化財資料館」の館長をされています。そして、三浦市教育委員会の文化財保護の学芸員を経て、現在は大学で考古学や文化政策を研究されている須田英一先生です。よろしくお願いいたします。
私はとても面白く映画を拝見しましたが、まず釼持先生からご感想をよろしくお願いします。

釼持先生：いや、すごい映画だなと思いましたね。 私もずっと考古学をやっていて何度か記録映画を撮ってもらったことがあります。横須賀市鴨居の上の台遺跡の発掘調査の記録映画もその一つです。元松竹におられた映画監督の酒井辰男さんが監督でしたけども、上の台の記録映画とは違って女性研究者に多くの視点を当てて作った「掘る女」で、これはまたすごく面白い映画だったなと思いました。
ただ、考古学の世界で、女性の研究者というのは、まだまだ少ないんですよ。須田さんなんかは大学で授業をやっておられて、考古学を学ぶ学生は結構女性が多いと思いますが、例えば 30 人の受講生がいたら、15 人以上が女性ですけど、卒業後研究者、または 埋蔵文化財の行政職に着かれる方は少ないような気がするので、もっともっと増えてもいいかなって、そのように思いながら、この映画を見ておりました。よかったです。

松　　原：ありがとうございます。それでは須田先生、お願いいたします。

須田先生：はい。皆さん、こんにちは。先ほどご紹介がありましたように、私は 1994 年から 2001 年まで三浦市教育委員会で、遺跡を保護したり文化財を守るという立場で職員として働かせていただいておりました須田と申します。よろしくお願いいたします。
今日初めてこの映画を観まして、最初の方の秦野の遺跡は、友人とかもたくさん出てましたし、それから、私もあの遺跡に半年ほど関係して掘っていたことがありましたので、まさにあの遺跡だったなということであります。
「掘る女」ということで、もう少し女性の視点が強いかなと思ったんですけども。確かに職員の方はみんな女性の方で、働いている方もみんな女性を中心にインタビューをしていたのですが、内容としては、「発掘あるある」というか、ちょっと女性の視点から見た発掘業界とか仕事の内容、そういったものを紹介した中身なのかなという気がしました。もう少し女性を前面に出した内容になっていてもいいのかなと思いました。
今釼持さんがお話しになったように、この業界って結構女性がまだ少ないんです。学生としては女子大に考古学の課程が設置されたりして、年々女性が 職場に占める割合は増えています。徐々に徐々に、神奈川県内の行政でも、女性が増えております。きっと女性の方が試験勉強をよくするからかなとよく言われておりますが、それは定かではありません。もう少し女性が増えて、どちらかとい

うと男の業界的なところが強いけど、もう少しソフトな女性目線や何かが活かされるといいのですが。
働いてる方は、インタビューされた農業や漁業に従事されている方、あるいは大体お子さんが小学校から中学生ぐらいのちょっと若いお母さん方。男性は大体リタイアされた方で、65 歳から 80 歳ぐらいまでの方が、発掘に携わっております。大抵の皆さんのイメージで言うと、日本の遺跡業界は、研究者が維持されてるんじゃないかと思われるかもしれませんが、実際発掘に携わってるのは、ああいう 65 歳以上 80 歳ぐらいまでの、社会人として仕事を頑張ってきた男性方、それから農業や漁業、畑仕事とかされている方。あるいは中学校や高校のお子さんたちを持つ若いお母さん方、こういった人たちによって成り立っていますので、もしこういう人たちがいなくなったら日本の遺跡は発掘できません。

松　　原：映画には魅力的な女性たちがいっぱい出てきました。須田先生は赤坂遺跡を掘ってらしたと思うんですけど、そういう女性は三浦にもたくさんいらっしゃいますか？

須田先生：数名の、お手伝いをいただいていた女性の方は、いらっしゃいます。

松　　原：こちらにですか？出てきてくださいとは言いませんので、ちょっと手を挙げてみてくださいな。掘ってたよとか、整理のお手伝いしてたよとかっていう方、いらっしゃいませんか？

須田先生：最近赤坂遺跡をお手伝いしていただいた方々は、三戸に住む農業と漁業に携わってきた方々、女性のみ。もう、すごいベテランさんです。

松　　原：そうですか。赤坂遺跡も、もう長い間いろんなところで掘ってこられたんですよね。

須田先生：そうですね、1977（昭和 52）年以来ですかね、行政で発掘しています。

松　　原：映画の中では、求人広告を見て応募したという方がいました。私はここ、南下浦在住なんですけれども、求人広告は来なかったですね。やっぱり初声地区でないと？

須田先生：新聞に入ってます。新聞の折り込みに何々遺跡って入ってます。大抵キャッチコピーは「誰にでもできる簡単な仕事です！」。全然違いますね。間違えないようにしてください。

松　　原：釼持先生、初めて雇われてパッと遺跡に行って、色々教えていただかなければあんなふうには掘れませんよね。

釼持先生：そうですね、例えば竪穴住居址を発掘するなら、この三浦半島だったら赤土を掘りくぼめて竪穴住居をつくっていますので、竪穴住居が廃棄されて、そのあとに草や木が腐ってできた黒土が堆積しているので、その色の違いをみたり、赤土の床面が固く踏み固められている感触などを、経験されてる方からいろいろ聞きながら、また一緒に掘りながら、教えてもらいます。こうして調査の技術や感覚を学んでいくようになると思います。

松　　原：遺跡は関東ローム層の中にあるんですか？

釼持先生：そうですね、関東ローム層を掘り込めて、例えば縄文時代だとか、この辺だったら弥生時代なんかの竪穴住居をつくっている。ただし、それよりもっと新しくなって、古墳時代とか古代なんかの竪穴住居だと黒土の部分だけで、それ以上深くはない。そういうこともやっぱり経験をした人から教わりながら掘るわけですね。
例えば竪穴住居の平面を出した時に、ジョウロで水を撒きながら、その水の染み込みの違いやなんかから、ここに住居址の端があるとか、またはさらに、柱穴なんかもここにあるなということを教えてもらいながらやっていくようになると思います。

松　　原：水撒いちゃったらわからなくなると思いましたが、逆なんですね。

釼持先生：そうですね。よく使いますね、これは。

松　　原：ジョウロで水を撒いて土の種類の違いを知るのですね。
須田先生、ジョレン（鋤簾）という言葉が出てきましたね。昔から使われている道具なんですか？実際の発掘は、何かとても古いやり方という気がしますが、昔と今とで、例えば 50 年くらい前と今とで発掘の道具や方法は変わってきてますか？

須田先生：基本的には変わっていないと思います。

松　　原：土にまみれて、こう。

須田先生：ジョレンという農業に使うやつって、さっきのは刃をつけてましたけどね。あれでもう全然作業量

が変わります。それをちゃんと専門にやるプロの方もいます。それから、皆さんが園芸で使う移植ゴテは案外 100 円ショップのが良い。厚いステンレスのやつは使いにくいですね。柄が赤とか青になってるごつい厚手のやつも使いづらいように思います。

松　　原：ちゃちな方がいい？

須田先生：薄い方がいいです、100 円ショップの方がいいですね。西と東で呼び名が違ったりしますが。さっきの（映画の中で）長野県の大竹幸恵さんが言っていた、ちょっと削るやつとか、ああいうちょっと新しい道具も最近導入されつつありますが、全体的には変わらない古典的な、職人技の仕事です。

松　　原：古典的。そうなんですか。
さて、釼持先生、ちょっと教えていただきたいんですけれども、棒とかたくさん 立ててましたでしょ、遺跡を掘る時に。棒を縦に立てて、それから横に紐を張ってっていうのは、どういう方針で、どのように立てているのですか。

釼持先生：そうですね、1 つには、赤いスプレーをかけて棒を立ててた部分があったと思います。あれなんかは、ここに遺物がありますよというような意味で棒を刺して、わかりやすくしていますね。

松　　原：焼き鳥の串みたいな。では、それぞれの発掘現場でそれぞれの工夫があるということでしょうか。

釼持先生：ええ、そうですね、やはり遺跡の種類によってもやり方は違いがあります。例えば、実は僕は先週の木曜日まで、この三浦市の白石町にある海蝕洞窟の調査をやってたんですけども、洞窟には洞窟の調査のやり方っていうのがありますね。例えば、さっきの映画と同じですが、我々は「セクション」って言ってんですけども、土層の断面やなんかを綺麗に出す方法のことだとか、貝塚とか洞窟もそうなんですけども、動物の骨や貝なんかが出てきますので、それを例えば 40 ㎝×40 ㎝四方で上から下まで、各層土ごと取り上げるだとか、竪穴住居址は竪穴住居址なり、古墳だったら古墳なりの調査の方法がありますから、それなりの工夫の違いはあると思います。

松　　原：そういう方針を最初に入って先生方とか専門の方々が決めて、作業の女性たちに「こういうふうに」ってお願いするわけですね。

釼持先生：そうですね、やはり調査の目的によってまた違いがありますから、それは作業員さんたちにも、「こういう方法で、特にここのところは気を付けて丁寧にやってほしい」とかっていうことはあると思います。

松　　原：須田先生、皆さんにもお配りした資料（みうらわが街ガイド（文化財情報）より）ですが、三浦市にもこんなにたくさん遺跡があるんですね。皆さんのお宅や、隣のお宅も遺跡になってるところがあるかもしれませんけれども、こういう遺跡と共存する、私たちです。先生のご専門でもあるかと思うんですけれども、遺跡と仲良くしていくとか、どんなふうに遺跡と親しんで、そしてみんなで遺跡を活かしていくかっというところで何かお話し願えますか。ちょっと難しい話になりますでしょうか。

須田先生：おそらく一般的には遺跡っていうと、町の発展を妨げるものとか、何か道路をつくったり建物をつくった時の邪魔になるものとか、そういったイメージが強いのかもしれません。例えば新聞記事になると、道路工事があって、そこに遺跡があったとして、新聞の見出しってどう出るかっていうと、「遺跡が通せんぼ」って出るんですよね。すごい悪者になっちゃうんです。でも、そんなことは実際にはなくて、道路を作る計画の中でここまでは発掘、ここからは道路とちゃんと工程の中で区分けされているので、決して邪魔してることはないんですね。何年分のうちのここまでは工事、ここからは発掘と。ここから工事ってことは決して邪魔してるんじゃないんだけれども、あの遺跡があるおかげで道路ができないとか、なんか悪者的なイメージになる。でも一方で言うと、古墳が出ると、「わあ、すごいな」というように新聞の一面を飾るという。
だけど、新聞の一面を飾るようになったのも 1972 年の高松塚古墳以降です。それ以前はそんな一面を飾るとかそういうことはなかったんですけど。あとは稲荷山古墳とかですね。ああいう代表的な古墳とかが出てくることによって、新聞の一面を飾り、いわゆる「マスコミ考古学」ってものが登場してきて、少しして遺跡が市民権を得るという状況にもなってきました。
そういった意味で言うと、遺跡っていうのは私たちの町の誇りでもありますし、アイデンティティでもあります。例えば、三内丸山遺跡とか吉野ヶ里遺跡とかと言うと、青森の宝、佐賀の宝というように言われます。古墳のある町であれば「古墳はわが町の宝」というふうに言われるようになりますので、そういったことも小学校ぐらいの時からちゃんと学習をしながら進めていくというふうにして、自分たちの町の宝であるってイメージを持っていけば、共存していけるのではないかなという

気がします。
遺跡って決して考古学者だけの対象ではありません。私たちの町の宝でありますし、先ほど映画の中で「遺跡が残らなければ復興はない」というふうに三陸のとこで言ってましたが、まさに陸前高田市の博物館は、数人いた学芸員のうち、生き残った方は 1 人だけなんです。数人の方がみんな流されて亡くなってしまったんですね。で、その方が 1 人で、海の中から、泥の中からいろんなものを回収して、その泥のついた 民俗資料についた塩分を、今でも落としてるんですね。今でもその作業をしています。
そのくらい、やっぱり地域の歴史のない復興はないと、そういうスローガンで、陸前高田市はやっております。そういう歴史のなくなった町に復興はないという、まさにそうかなと。
歴史をおろそかにしない町にしたいなと思います。

松　　原：この三浦海岸の海に出てぐるっと金田湾を眺めると、この地図にある通り遺跡だらけなんですね。須田先生に案内していただいて南下浦の遺跡巡りをしたことから、わが町にさらに親しみを感じるようになりました。
今度は釼持先生に。釼持先生のいらっしゃる赤星直忠博士文化財資料館で講演をしていただいたんですけれども、赤星先生も資料館も、三浦半島の大事な宝のひとつだということを感じております。ちょっとだけ資料館の宣伝をしていただけますでしょうか。

釼持先生：もしかしたら、この中に赤星直忠先生に横須賀市立工業高等学校で教えていただいたっていう方もいるかもしれませんけども、赤星直忠先生は、戦前からこの三浦半島において考古学の調査研究をやられた方です。
戦前にこの三浦半島で考古学を調査研究するっていうことは非常に難しいところだったんですね。というのは、三浦半島は東京湾要塞でありましたので、例えば地面を 1 メートル掘るにも、今の横須賀のうわまち病院のところにあった東京湾要塞司令部に行って許可を得て、それで調査をする。考古学には写真は非常に大事なんですけども、写真を撮るにしても許可を得て、それから写真を撮ったらその原板を要塞司令部に持って行き、検閲を受けなければ使うことができなかったんです。もちろん調査の記録を書くにも、録取願いというものを出して、それがないと記録ができないということです。
そんな中で三浦半島の考古学、特に縄文時代の土器の編年研究、縄文時代の物差しを作る研究をやってこられた方です。赤星先生の研究の成果に基づいて、縄文時代の土器型式（時代の物差しの目もり）の名前、例えばこの三浦市だったら「鵜ケ島台式土器」だとか、「大浦山式土器」だとか、赤星先生の調査研究に基づいてつけられた土器型式が、いくつもあります。
赤星先生は在野にいて学校の先生をしながら、一時期は陸軍の重砲兵連隊の兵隊として、それから鉄道車両の会社の社員として、そういう仕事をしながら考古学の調査研究をやってきました。その赤星先生の戦前からの調査の資料は、多くは神奈川県立歴史博物館とか、横須賀の深田台にある横須賀市自然・人文博物館に収蔵されていますが、最後まで先生が手元に置いていたものが、現在私どもの赤星直忠博士文化財資料館に収蔵・展示されています。
赤星資料館は宇内建設という建設会社の 3 階にありますが、宇内建設の先代の社長も赤星先生の教え子で、それで会社としての地域貢献っていうようなこともあって、一室を展示室にして、それで地域の小学校なんかが歴史の授業で見学に来たり、中学生が総合的学習の中で新聞作りで来たりなんかして活用されています。もちろん、皆さんのように地域の歴史研究や、歴史愛好の団体の方などにも公開してるところです。もし興味がある方がありましたら、どうぞ見学にいらしていただければなと思っております。

松　　原：その資料館っていうのは無料なんです。宇内建設さんが熱意を持って支えてくださっている。そして釼持先生もボランティアで館長さんをなさっています。でも収蔵されているものはとっても貴重なものばかりです。資料館に電話をして、先生がいらっしゃる曜日と時間を確認して行ってください。先生が色々と説明してくださるので、ぜひこれは覚えておいていただきたいと思います。
また、須田先生の「小網代周辺の遺跡について」という講演と、小網代周辺と南下浦の遺跡巡りの記録をこあじろの森くらぶで冊子にしようと編集作業中です。釼持先生が講演された記録の冊子と同じように、会員の皆様には通信と一緒に郵送する予定です。
では先生方、貴重なお話をありがとうございました。　　（完）

小網代を詩う

木枯らし

中井 由実

並んで光るススキの穂
長い茎をなぎ倒す勢いで
風が吹きつける
銀の海原
波頭がちぎれて飛んでいきそうだ
その先　小網代湾

霜月

中井 由実

日本列島の西の方では
夏日になりそうな所もあるそうだ
先週の寒さは何だったのか
かと思えば
洪水になっている地域もあるし、、、

森の虫たち
鳥たち
木々たち
笑っておくれ
人間は文句の多い生きものなのだ
小網代の谷を下り始めるまでは

挿絵　「ちいさな秋」伸

遠足　南下浦遺跡めぐり

2024 年 10 月 6 日（日）
参加者　8 名

3 月に須田先生の案内でめぐった南下浦遺跡探訪の続きです。前回は雨崎で急な雷雨に見舞われ、最後まで案内していただくことができずに終わってしまいましたが、その先も是非めぐりたいと、再度企画しました。昨夜の雨に変わって過ごしよい晴天に恵まれ、三浦海岸発のバスを松輪で下車。

①　田鳥原（たっちゃば）遺跡

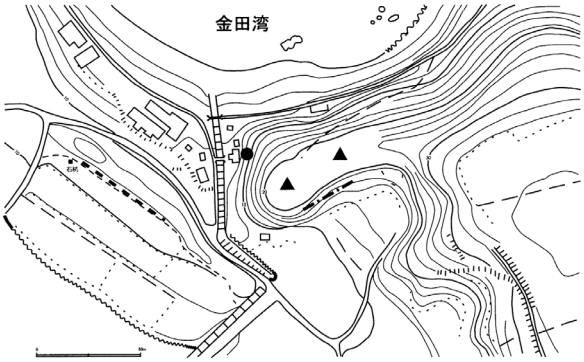
バスを降りたこの辺りを地元の人たちは「たっちゃば」と呼び、縄文土器のかけらや黒曜石などが古くから見つかっている、いわゆる散布遺跡だという。また畑の中にある全長 80mほどの不定形の塚は 50 年前の写真と寸分変わるところがない。むかしの飢饉で亡くなった人の遺骸や牛馬の死体を投げ込んだところだという話をきいた。祟りを恐れて塚を壊して畑を広げようとする人はいないと、地元の方から伺った。

> バス道を戻る方向に少し下り、右がわの丘に登ると高山の水道塔から金田湾、遠く房総まで見渡せる気持ちのいい畑のあいだの小道に出ます。今日はヒガンバナの赤がよく目立ちます。お彼岸はとっくに終わっているのに、例年よりずっと遅い開花です。丘の北東端、雨崎をめざして下った先が勝谷です。

②　勝谷（かっちゃ）遺跡

勝谷は金田湾に沿って北西方向に伸びた砂丘だ。内側（南側）の低地には畑がせまっている。その間に、もとは石棺だったと思われる石組みが 4 組発見され、砂丘内にはまだ埋まっている可能性があるという。弥生中期の土器片も見つかっている。近くの畑で大根のおろ抜きをしていた農家の方は、「そのへんから時々黒くなった人骨が出てくるよ」と話された。

> 農家の方に「みんな持っていきな！」と、おろ抜き菜っ葉をたくさんいただきました。
> 砂丘の東に標高 25m ほどの丘があり、その南麓が次の遺跡。



第２図　勝谷砂丘遺跡と周辺の遺跡　（中村勉 2016）
横須賀考古学会研究紀要第４号より

③　雨崎横穴墓群

金田字勝谷(かっちゃ)に所在。別名かっちゃ浜横穴墓群、松輪バス停から雨崎洞窟遺跡へ向かう途中畑に面した南側斜面の小さな丘が続いている所に 16 穴開口している。隅丸方形低ドーム形やアーチ形の玄室構造などがみられることから、7 世紀代から築造された横穴墓群と考えられる。畑に面した小さな丘の所に 2 穴遠くからだが見ることができた。

④　雨崎洞穴遺跡

現在は樹木に覆われているが、時折陽が差し込むと白っぽい岩盤が見えて近づけば洞穴があることがわかる。洞穴といっても、深い穴ではなく、岩陰に近い（入口幅 7m、奥行き 4m、高さ 2.5m）。1967-68 年の発掘調査で洞窟の下層は弥生時代中期から古墳時代前期の生活址、上層は古墳時代前期から終末期にかけての墳墓が存在することが明らかになった。弥生時代の遺物（土器、貝輪、骨角器、卜骨等）、古墳時代の埋葬骨や焼人骨、副葬品が出土している。特筆すべきことは、古墳時代前期の小児の人骨を埋葬した木棺が見つかっており、現在は赤星直忠博士文化財資料館に収蔵保管されて

いる。勾玉・臼玉・管玉など副葬品も確認されているため、雨崎の王子様（お姫様？）だったのかもしれない。古墳時代後期の火葬を行った施設も発掘されている。

> 雨崎洞穴の前は排水路整備の工事中だったので、東部浄化センターの構内を通らせてもらって東に進み、折り返して雨崎神社へ。最後の登りは昨日の雨で滑りやすく、草木につかまりながら苦労して進みました。

⑤　雨崎古墳群

全長約 30m の、東側を前にした前方後円墳と、その前に接する直径約 10m の円墳。自然地形を利用して、丘のてっぺんから金田湾を見渡すような位置に作られている。古墳時代はここから蛭田の丘の上にあった古墳や、長沢の古墳もよく見えたことだろう。大和朝廷が造り始めた前方後円墳の形が隷属の証として伝えられ、この地方の有力者が埋葬されているようだ。ヤマトタケルの東征とも関係があるかもしれない。

三浦市に前方後円墳があったなんてほとんど知られていない。きちんと測量して確認されたのも最近のこと。後円部のお墓を守るように神社が祀られてきたことで、大きな改変を免れたのだろう。

ここには房総と行き来する大蛇の伝説もある。

> このあたりは雨崎古墳群を中心に勝谷遺跡、雨崎洞穴遺跡、雨崎横穴墓群と、弥生から古墳時代へと、同じ時を重ねた一大墓域だったようです。
>
> さあ、浄化センターまで戻り、海沿いに金田漁港に向かいます。バス通りにでたところでブラフ積の石垣が見えました。

⑥　ブラフ積石垣

横浜の外国人居留地のレンガ積みから学んだ日本の石工が、石垣に応用して作り始めた長辺、長辺、小口等という石組みで、横浜や横須賀基地を中心に明治から昭和初期にはやった。三浦でも大きな農家などの石垣にみられる。

> 金田漁港で昼食とトイレタイム。8 人全員が一つの木の大きなテーブルとベンチを囲んでのんびりお弁当をいただきました。

⑦　岩浦横穴墓、やぐら群

岩浦のバス停の手前の断崖に穴が 2 つ見える。入口の所に五輪塔が立っているのが見える。左側木々で見えないが 2 穴ある、1 穴は落盤で埋まっているが奥壁の半円形から古墳時代の横穴墓とみられる。もう 1 穴は奥壁に 3 基、左壁に 3 基五輪塔が彫られている、これは鎌倉時代から室町時代に「やぐら」として利用されたと思われる、五輪塔を彫るのは死者への供養のためのもの。また入口にある五輪塔は凝灰岩製、14 世紀前半頃のもの。横穴は低いところにもあり戦時中海面砲台が作られた。断崖には道があったが今は無くなっている。崖の上には「伝三浦義村墓」がある、関東大震災の時に壊れて海まで落ちたと言われている。

> 岩浦バス停から 4 駅、高抜までバス移動。

⑧　高抜機銃掃射場

第二次大戦中に造られた狙撃用の陣地。蛭田の鼻、道路沿いの崖に崩落防止のコンクリートが吹き付けてあるが、その一角の高さ 2～3m の位置に四角い狙撃用の開口部が開いている。東京湾要塞研究家：デビット佐藤氏の HP「本土決戦基地マップ【三浦半島】」によれば、内部には狙撃室から通

路がかなり長く続いており、弾薬庫または兵員棲息部と思われる空間がある。通路に続いてもう一か所狙撃口を設ける計画だったが途中で終戦を迎えた。また海岸に面した岩崖にも狙撃口が一つ設けられているが、内部は土で埋まっている。それにしても、こんなところから上陸する敵を迎え撃つつもりだったのだろうか。

南下浦中学校のグラウンドの縁の道を少し登ります。

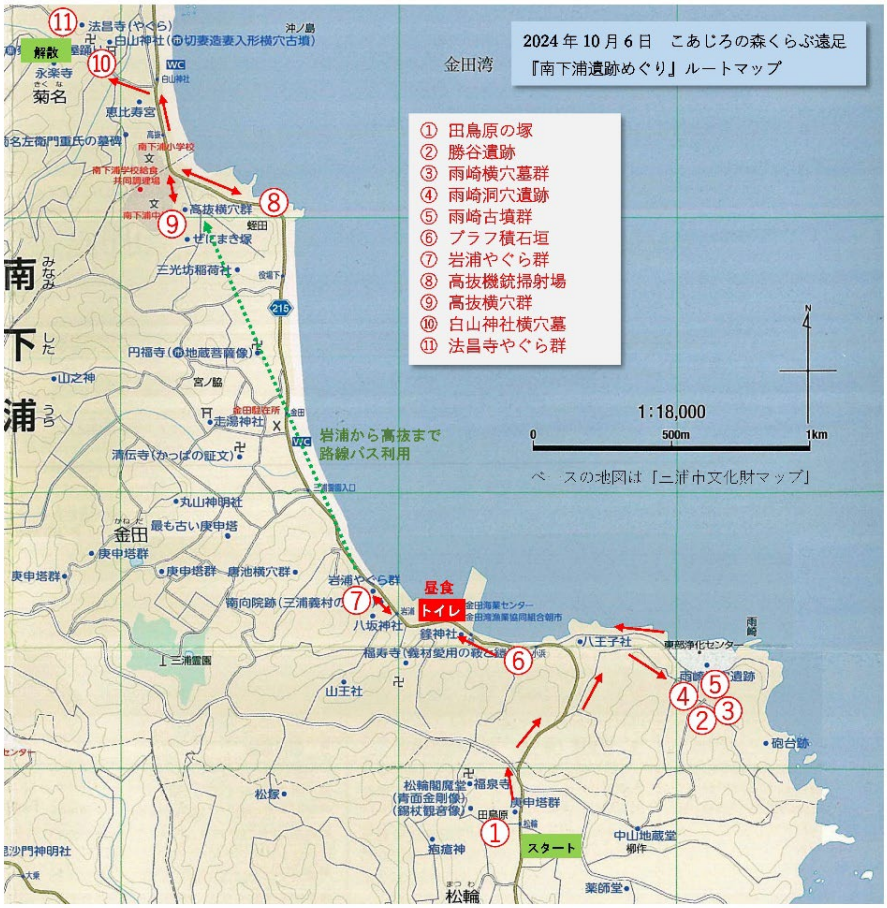
⑨　高抜横穴群

南下浦小学校の横穴墓が 1 穴と中学校内の横穴墓群が 21 穴。小学校東面の丘陵先端の 1 穴は 1964（昭和 39）年運動場拡張工事中に発見、浜田勘太氏が調査。直刀断片、鉄鏃片、須恵器片、土師器片が出土。さらに寛永通宝、江戸時代の徳利片なども発見され、長くにわたって使用されていたが、発見当時穴の入口は大きな石をたくさん積んで塞いであった。

南下浦中学校は 1974（昭和 49）年に増改築計画に学校の裏山を崩して建てる事となり浜田勘太氏調査。舌状台地には 11 穴みつかり、全て覆土（砂）を出して実測、入口部分は狭く奥に向かうと扇形、または長方形に広がる。天井はアーチ形。土師器片、須恵器片が少数出土。

1986（昭和 61）年中学校の校庭拡張工事に伴い調査。校庭予定地には遺跡が無いことが分かったが、計画の運動場から新運動場への取り付け道路付近の台地（中学校南東斜面、標高 19m～26m）に 10 穴開口している事が分かった。そのうちの低い横穴 2 穴を調査、覆土（砂）を出して実測。7 世紀後半から 8 世紀初頭の造営と思われる。遺物は出なかった。

昭和 49 年、昭和 61 年調査の横穴墓は戦時中防空壕として利用されていた。



⑩　白山神社横穴墓

白山神社の奥にある、切妻造妻入形横穴古墳。三浦市指定史跡になっている。今から 1200～1300 年前、奈良時代頃に造られたと推定される。内面の壁に朱を塗ったあとがわずかに残る。また、棟、柱、垂木、桁などが浮き彫りにされている。玄室の奥の部分は約 10cm 高くなっていて棺が置かれていたと思われる。

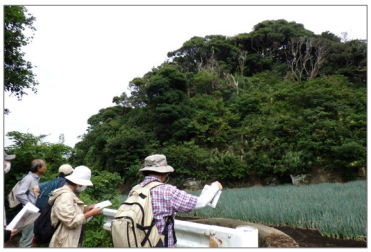
白山神社のすぐ奥が法昌(ほっしょう)寺。曹洞宗のお寺です。

⑪　法昌寺やぐら群

やぐらは鎌倉から室町にかけて、僧侶や武士の墓として山すそに掘られたもので、土地の少ない鎌倉を中心に作られた。ここ法昌寺では、寺を囲うように両脇と後ろが崖になっている。現在やぐらは寺の墓地と接しているが、50 年ほど前は本堂の裏はほとんどが竹藪だったという。本堂裏の一番奥と両脇の崖すそに五輪塔のようなものや仏像のように見える浮き彫りが数か所ある。

法昌寺の前で初声方面へ帰る 4 人と別れ、残りの 4 人はバスに乗って三浦海岸で解散しました。

以上記：浪本、松原、三本　　写真：辻、浪本


雨崎横穴墓

雨崎古墳群

白山神社横穴墓

法昌寺やぐら群

ご参加の皆様からメッセージをいただきました

10 月の 6 日だというのに、ヒガンバナが咲き、林にはツクツクボウシの声がする。
秋がきたいのに、すぐそこまできているのに、足止めされているような日だった。
風はさわやかで、歩いていくのは楽しかった。
三浦の崖という崖はすべて穿たれて、ヤグラに使われているのではないかと思われるほど数が多かった。最後の白山神社の奥の奈良時代の豪族の古墳はちいさくて、美しく保存され、感動だった。
このようなプランを実際に歩けるように立案してくださり、詳しい資料を用意してくださった三本さん、松原さん、浪本さん、ほんとうにありがとう！すごくよかった！ K.S

前日の雨が気がかりでしたが、天気はまずまずでホッとしました。
バス停近くの田鳥原の塚の話や、雨崎遺跡や横穴群、そしてやぐらといろいろな穴を見られて面白かったです。
雨崎遺跡近くで地元の農家の方の話を聞けたのはラッキーでした！
金田漁港でのお昼時間も、楽しかったです。
長い移動距離でしたがバスを利用する事が出来たので、バテ気味の私には助かりました。長く歩くことが辛いと感じてきた今日この頃でしたが、楽しかったです。
ありがとうございました。 Y.M

今日はありがとうございました。前日の雨で滑りやすい道を滑りながら登り、前方後円墳を見たり、通ったことのある道の上にあるやぐらを見たり。また勝谷の農家の方にいただいたおろぬきの大根葉が、夕飯の食卓にのりました。
白山神社の古墳の中に入れたのはびっくりです。かすかな赤の染色が残っていて、少しあとずさりをしてしまいました。
秋の日の楽しい遠足でした。 M.T

前回雷雨でビビりあきらめた雨崎遺跡、今回もズルズルの足場に心配になり古墳までは私だけ行けませんでした。
参加者の皆さんズボンのあっちこっち泥を付けて満足そう羨ましい！
でも洞穴の一つは見られましたし、地元の方に墓が作られる前は砂丘があった所に近年まで埋葬していたという話を聞くことができ興味深かったです。
資料や地図を用意して頂き、すぐ忘れてしまうので復習になります。
ありがとうございました。 A.K

南下浦遺跡めぐり。スタッフの皆様のルート下見、解説資料の充実。おかげさまで知力・体力を鍛える、楽しい一日を過ごすことができました。 S.T

以前より雨崎の前方後円墳に行きたいと思っていたので、今回は大変ラッキーでした。自分の目と足で、場所・形状・大きさ・高低差を感じることができ感激でした。
頂上には祠が祀られ、地域の人たちが今でも守っているのに驚きました。
スタッフのに皆さんが丁寧に説明してくれ、楽しい一日が過ごせました。ありがとうございました。
K

今回、なんといってもショックだったのは雨崎洞穴遺跡の目の前が工事（小川の改修）をされていたことです。重機が入り、コンクリートで固められ、今はまだ向こう岸の洞穴に近づくことができません。工事の後、どういうふうになるのか、気になるところです。 H.N

南下浦遺跡巡りにご参加のみなさま
お疲れさまでした。みんな偉い！帰宅後すぐに菜っ葉つくって食べた人、服を洗濯して干した人！
私はシャワー浴びてソファでひと眠り、足がつった痛さでめざめ、今日は夕飯作れないわ・・・とひよって、近所のスシローですませました。夫とビールで母の「退院前祝だね」と言ったら、「結婚記念日」の前祝だと返され、すっかり忘れていた身はタジタジ。
下見の時より 2～3㎞少なかったのに、今回のほうが疲れたみたい。それにしてもいいお天気で何よりでした。
A.M

サロン小網代　　湘南　引地川を歩く

2024.11.3　　祖父川精治

相模台地を走る小田急江ノ島線。その東側に境川、西側には延長凡そ 20 キロの 2 級河川の引地川が流れている。

水源地の大和市和泉の森から、高低差凡そ 60 メートルの引地川は湘南鵠沼海岸を目指して行く。

河口の湘南鵠沼橋へ、小田急鵠沼海岸駅から徒歩 10 分。両岸は緑地に指定され川べりには遊歩道があり、護岸工事でガッチリと固められ排水路風になってしまった。昔は、うねうねと蛇行して氾濫洪水や、関東大震災の時は、恐ろしい大津波が川に沿って逆流したという。最近になって津波被害想定区域の標識が新設された。

稲荷橋の先に鵠沼伏見稲荷神社、和貴水と呼ぶ湧水が有名。東西に架かる、それぞれに意匠を凝らした個性的な橋の造作風情が面白い。いつも川面を見て暮らす人の話では、干満の差が 30 センチ以上もあるという。作橋の畔には、文化財ハイキングコースの案内板がある。鵠を（くぐい）と読み白鳥の古名。昔は、広い湿地帯で白鳥の飛来地それが、鵠沼の地名の由来とある。

JR 東海道線、高山地下道の親水広場。トイレあり。長い国道 1 号の藤沢バイパス橋。池の中央に鎮座する柏山稲荷神社。川面には数多くの水鳥の群れ。左から掘割のような細長い小糸川が合流する。

舟地蔵公園、舟形をした石造の台座に乗った赤い帽子と前掛け姿の船地蔵様が鎮座している。左方の台地は大庭城跡公園で、大庭景親の居城。永正 9 年（1512）北条早雲に攻められて落城。城下、二番構、駒寄、等往時忍ぶ昔からの地名が現存する。

箱形の横浜市水道橋、青いアーチ状の横須賀市水道橋。広大な元藤沢飛行場の跡地へ進出した大企業団地群。最も有名なのは、いすず自動車藤沢工場。柳橋、湘南台橋の前後には桜並木が続き、やがて東海道新幹線の高架橋。

小田急高座渋谷駅近く、花浄土「みつまた」の寺として有名な曹洞宗清流山常泉寺。開花期が桜と同じ春 4 月。

大和市福田地区、引地川両岸の約 1・5 キロは「福田の千本桜」として有名。川幅が約 5 メートルと狭く、両岸から差し交す樹木密度の高い桜回廊。川面に華やかな花影が映り、それは実に素晴らしいものである。お花見のシーズンには、屋台も並び大勢の人達で賑わいを見せる。

左側の台地は、米軍厚木航空基地。相模鉄道の高架トンネル下を抜ける。最近、大手私鉄等と交互乗り入れを行っているので、JR、東急等の車両を見ることがある。

東名高速道の下を通り、清冽な引地川の源流である広大な泉の森自然公園。中央には広大な池がある。復元した茅葺屋根の古い農家が保存され、園内をゆっくりと散策すると半日は必要となる。

水源地の泉の森は、自然環境保護のために柵で囲まれ一部は立ち入り禁止となっている。

コースタイム

引地川河口―4 時間―福田の千本桜―2 時間―泉の森―30 分―大和駅

第 44 回交流会　2025 カレンダー画像選考会

2024 年 10 月 12 日（土）
14：00～　リモート
参加者　8 名

第 44 回のリモート交流会で相談し、寄せられた画像の中から 2 か月ごとの 2025 年カレンダーの画像を決定し、画像キャプションの概要を作成しました。例年、このリモート会議はパソコン初心者にも参加していただけるようにということで、パソコン操作に関する質問は何でも OK。カレンダーそっちのけで、パソコン講習会が始まったりもしますが、先ずは Zoom で共有された画面を皆で見ながら、小網代の森の風景や生きものに感嘆しつつ画像を決めていきます。

そうして、決定したのが下の画像。楽しいキャプションをつけてお手元にお届けします。

写真も提供してくださった、T.Ishizuka さんのデザインです。

昨年は全ての会員さまにプレゼントいたしましたが、今年からは例年の通り、ご寄付のお礼として送らせていただきます。

わずかですが残部がございますので、ご希望の方には実費程度でお分けします。

価格：600 円/部+送料実費
お申込み：
info@mori-club.com
046-889-0067（仲澤）

小網代の森 *NEWS!!*

スタッフの活動

2024.10.06（日）遠足　南下浦遺跡めぐり
2024.10.12（土）第 44 回交流会　2025 カレンダー画像選考会　（14：00～リモート）
2024.10.19（土）スタッフ会議（リモート）
2024.10.20（日）スタッフ研修「変形菌を探し 2024@光の丘水辺公園」
2024.10.24（木）小網代の歴史を訪ねてみようⅣ編集会議（リモート）
2024.10.31（木）小網代の歴史を訪ねてみようⅣ編集会議（リモート）
2024.11.02（土）スタッフ会議（リモート）
2024.11.08（金）小網代の歴史を訪ねてみようⅣ編集会議（リモート）
2024.11.16（土）小網代の歴史を訪ねてみようⅣ編集会議（リモート）
2024.11.17（日）遠足　池子遺跡群資料館～まんだら堂やぐら群
　　小網代の歴史を訪ねてみようⅣ小冊子入稿

2024.11.18（月）こあじろの森くらぶ通信第 44 号編集会議（リモート）

●●● **ご寄付ありがとうございます**

安西章次様　石川登美子様　加藤紀子様　浪本晴美様　三本保子様（五十音順）
自主上映会費用カンパ　掘る女上映応援隊
以上の皆さまからご寄付、応援金をいただきました。
ありがとうございます、大切に使わせていただきます。

●●● **【謹呈】小網代の歴史を訪ねてみようⅣ「こあじろ考古学講座」小冊子**

昨年 9 月 9 日に始まった須田英一先生のこあじろ考古学講座。その後、須田先生のご案内で三浦市内の遺跡探訪を 2 回、また、こあじろの森くらぶメンバーのみでの遺跡めぐりを 2 回と計 4 回の遺跡歩きで考古学に親しんでまいりました。その全記録に配付資料を添えて、「小網代の歴史を訪ねてみよう」シリーズⅣとして、小冊子にまとめました。通信 44 号に同封し、会員の皆さまにお送りします。
また若干の残部がありますので、入手ご希望の方はご相談ください。

今後のイベントのお知らせ

●●● 第 45 回交流会　「森の落とし物を探して」

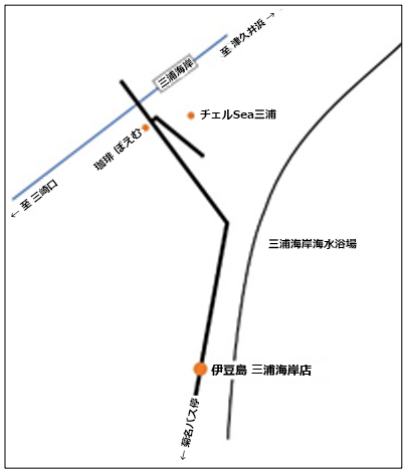
いつもとは逆コースで、漁港から引橋へ森の落とし物を集めながら登ります。深秋の森の落ち葉や木の実、色とりどりの落とし物を集めながら歩きましょう。昼食はベイシアのフリースペースで。お弁当はベイシアで購入もできます。午後は水間様の谷を下り、寄り道しながら菊名バス停で解散します。

日　　時：12 月 7 日（土）
集　　合：9：40　三崎口駅前
　　9：55　屋志倉行バスに乗り、小網代バス停で下車します。
解　　散：16：00 頃　菊名バス停
持 ち 物：飲み物、お弁当（ベイシアで購入もできます）
＊参加資格：会員とそのご家族、ご友人
＊保険はありませんので、ご参加は自己責任でおねがいします。

●●● 縁の会のお誘い（要予約）

第 45 回交流会の後ご希望の方は、恒例の縁の会へ。縁の会のみご参加の方は 17:00 現地集合。（三浦海岸駅から剱崎行または三崎港行のバスがあります。琴音バス停下車。徒歩でも 15 分ほどです）

日　時：2024 年 12 月 7 日（土）17：00～19：00
会　場：伊豆島 三浦海岸店（三浦海岸駅から徒歩 15 分 日本料理）
　　TEL:046－889－4100
会　費：5,500 円（税込）　飲み物は別途各自負担
予　約：参加ご希望の方は 11 月末までにスタッフ、または下記の連絡先にお申込みください。



・縁の会のみのご参加も歓迎です。
・ご参加はこあじろの森くらぶ会員とそのご家族、ご友人に限ります
ご連絡：メール　en45@mori-club.com（縁の会担当）
　　電　話　046-889-0067（仲澤）

●●● スタッフ研修　第 11 回 三浦の海岸歩き「三戸から黒崎」

日時：2025 年 1 月 18 日（土）　雨天中止（予備日 1 月 19 日（日））
集合：9：30　三崎口駅前

＊参加ご希望の方は、下記までご連絡ください。詳細をお知らせします。
連絡先:staff@mori-club.com(メールの件名に「海岸歩き」とお書きください)

●●● スタッフ研修「変形菌探し 2025@光の丘水辺公園」

冬の寒さの中では変形菌が見つけ難いため、変形菌探しはお休みします。
再開は 2025 年 4 月の予定です。

●●● 第 46 回交流会 「鳥いっぱいの小網代の谷 2025」

恒例の鳥見会、2025 年も小網代の森へ鳥たちと出会いに行きましょう。

日　時　：2025 年 2 月 2 日（日）　荒天延期 2 月 9 日（日）
集　合　：早朝谷歩きコース　8：00　水道広場（小網代の森引橋入口）
のんびり漁港コース 9：40　三崎口駅前（または小網代漁港 10：40）
9：55 屋志倉行バスに乗り、小網代バス停で下車します。
持 ち 物 ：昼食、飲み物、あれば双眼鏡、図鑑など
講　師　：別府史朗
参加資格：会員とそのご家族、ご友人
＊保険はありませんので、ご参加は自己責任でおねがいします。

●●● 【予告】 「ニリンソウ」@光の丘水辺公園

例年 3 月下旬から 4 月上旬のニリンソウ開花時期に合わせて、一般公開されます。近くになりましたら、時期をお問い合わせください。
お問合せは 「水辺公園友の会 HP」： https://mizubekouen.com/
または 水辺公園管理事務所電話／FAX：046-849-7650
こあじろの森くらぶの遠足として実施する場合は別途ハガキ、HP でお知らせします。

●●● 【予告】第 47 回交流会 「みどり活き活き春の森」

春です。待っていたかのように芽吹く若葉、大胆に飛び回るチョウや虫たち。もうすぐ小網代の森は花園に変わります。恒例の、昭和の日交流会は 2025 年も実施する予定です

日　時　：2025 年 4 月 29 日（祝・火）荒天中止
イベント詳細は、3 月下旬発行のこあじろの森くらぶ通信 45 号にてお知らせします。
参加資格：会員とそのご家族、ご友人
＊保険はありませんので、ご参加は自己責任でおねがいします。

こあじろの森くらぶ通信 No.44 2024 年 11 月 24 日 発行：こあじろの森くらぶ Koajiro Woods Club
所在地：〒238-0101 三浦市南下浦町上宮田 1528-75
連絡先：ホームページトップの「お問合せ」からメールをお送りください（高橋）
電話 046-889-0067（仲澤）
ホームページ URL：http：//www.mori－club.com/index.html
（右側の 2 次元コードをスマホで読み込んでください）
年会費：1000 円（7 月～6 月）入会金不要
郵便振替：こあじろの森くらぶ 00290-6-137203（新規ご入会の方はお振込み後上記連絡先へご一報ください）